

2010年9月10日 札幌
シトロエン・レーシング発

ラリー・ジャパン(2010年9月8日~12日) デイ1

～ オジェとローブ、勝利めざして激走 ～

ラリー・ジャパン初日は白熱した戦いで、優勝を狙う上位陣から脱落者は出ませんでした。シトロエン・トタル・ワールドラリーチームは当初トップに立っていたセバスチャン・オジェ/ジュリアン・イングラシア組がデイ1を終えて3位の好発進、セバスチャン・ローブ/ダニエル・エレナ組は6位につけてチャンスをうかがっています。

ラリー・ジャパンは木曜日の夜、通常はサッカーや野球がおこなわれる札幌ドームでの2回のスーパースペシャルステージから始まりました。こうした場面に滅法強いセバスチャン・オジェは2回とも最速タイムを叩き出し、まずはトップに躍り出ました。

一夜明けると苫小牧へ移動し、グラベル・ステージでの戦いが始まりました。27キロのイワンケ・ステージ(SS3)で、ペター・ソルベルグに3.2秒差の2位で走ったオジェは、いい手応えを感じていました。「すぐに調子をつかむ事ができたよ。こういうときは、自分の感覚を信じていくからね。思いっきり踏み込んだ。確かに掃除役のハンディは少しあるけど、初挑戦のラリー・ジャパン、上々の滑り出した」

ローブは、イワンケ(SS3)でトップから24秒遅れの6位。オジェのように上機嫌とはいきませんでした。「掃除役だったにしても、これだけ遅れるのはおかしい。僕がまだリズムに乗り切れていないのか、それともクルマのセットアップが完璧じゃなかったのか。クイック・コーナーでのグリップが今ひとつだったように思う。だからいいタイムも出なかった」

SS4もソルベルグが最速で走り、総合順位でオジェから首位を奪いました。昼にサービスパークへ戻ってきた時点で、上位2台のシトロエンC4 WRCのタイム差は10.3秒、ローブは、首位ソルベルグから36秒遅れという結果です。「今のところ、どうもパツとしないね。SS3では相当タイムロスをしたし、そのあとの2ステージも今ひとつタイムが伸びなかった。サービスパークでダンパーのひとつに問題があることがわかった。それで調子が出ないのかもしれない」

2度目のコイケ(SS8)で、ローブは前を行く面々との差を半分に詰めることに成功。しかしデイ1が終わった時点で、ローブは首位から約1分の遅れとなりました。

「できるかぎりプッシュしているんだ。ドライビングも問題ないし、マシンの感じも悪くない。でも差はどんどん開いてしまうんだ」と、6度の世界王者に輝くローブは首をかしげました。

「急いで結論を出すことはしないよ。明日走れば、今日のタイム差が掃除役になったことで生まれたのかどうかわかる。ラリー・メキシコでは初日に1分30秒遅れだったけど、それでも勝った。だからまだ可能性はある」

昼休みの時点で2位だったオジェは、その後順位を一つ下げて初日を3位のポジションで終えました。

「最後のステージはプッシュしなかった。ライバルたちが、僕を明日1番に走らせようとしているかもしれないからね」とオジェは、笑顔で語りました。

「今日の走りにとても満足している。でも、ジャパンのステージやコンディションが相性抜群、というわけでもないんだ。最後まで優勝を争える位置にいられるかどうかかわからないけど、まだたった20秒遅れだしね。まだまだ最後までわからないよ」